

農業用水路安全対策ワークショップ運営の手引き



令和2年6月

富山県農林水産部農村整備課
富山県土地改良事業団体連合会

目 次

1. 手引きの目的、位置づけ	1
2. ワークショップを通じた安全対策の検討の基本的な流れ	1
3. 対象範囲及び開催規模の設定	1
4. 開催に向けた打ち合わせ、準備等	2
5. 主な流れと内容	4
6. 安全点検の考え方	5
7. 危険箇所マップの作成方法	12
8. 対策検討シートの作成方法	14
9. 役割分担と進行	15
10. 成果のとりまとめ	18
11. 危険箇所マップ等の地域への周知・啓発	19

1. 手引きの目的、位置づけ

富山県農業用水路安全対策ガイドライン（以下「ガイドライン」という。）では、集落単位や、広域的な自治振興会単位など、地域の実情に応じた範囲において、地域が主体となって身近な危険箇所を点検・把握・共有し、必要な安全対策を講じることが重要であるとし、ワークショップ等を通じた安全点検や危険箇所マップづくりの普及をソフト対策のひとつとして位置付けている。

このため、ガイドラインに基づく地域での安全対策を進めるにあたっての参考例となるよう、ワークショップの運営方法などに関する基本的な運用事例などを盛り込んだ本手引きを作成した。

ワークショップを通じて地域住民の農業用水路に関する理解や転落事故に対する認識を高め、地域が主体となった広報・啓発活動や地域のニーズや実情に応じた安全対策が推進され、事故の起こらない地域づくりにつながることを期待するものである。

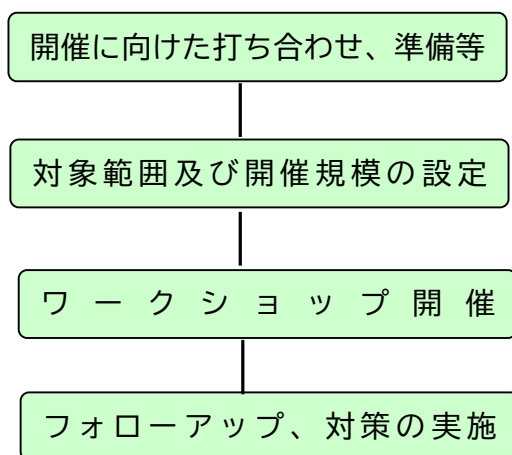
■ワークショップの目指すもの

- (1) 参加者の農業用水路に関する理解浸透、転落事故に対する安全意識の向上
- (2) 地域内用水路の安全点検、対策のグループディスカッションを通じた合意形成
（作成目標とする主な成果物：危険箇所マップ、対策検討シートの作成、安全対策マップ）
- (3) 積極的なソフト対策と優先度を踏まえた効果的なハード・セミハード対策への展開

2. ワorkshopを通じた安全対策の検討の基本的な流れ

ワークショップの実施に向けた基本的な流れを下図に示す。

対象地域の選定後、地域の代表者との打ち合わせや調整を行い、事前の現場確認や各種準備を経てワークショップを開催する。



※ワークショップとは・・・

英語では、仕事場、作業場の意味。講師の話を参加者が一方的に聞くのではなく、参加者自身が討論に加わったり、体を使って体験したりするなど、参加体験型、双方向性のグループ学習や合意形成の場として広く活用されている。

ワークショップ開催に向けた基本的なフロー図

3. 対象範囲及び開催規模の設定

農業用水路が流下する地域を対象とし、以下に示す地域組織、関係者を参集範囲とする。

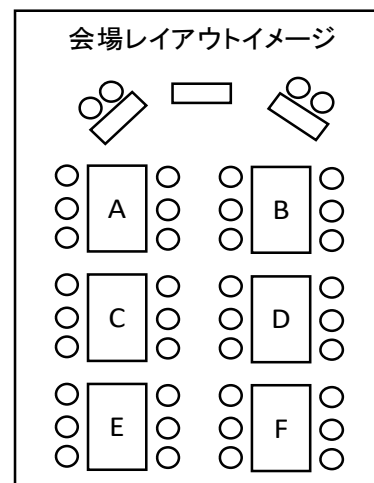
○対象範囲

ワークショップの対象範囲は、農村集落単位のほか、小学校・地区センターなどの地域のまとまりを単位とするなど、地域活動の内容や状況に応じて開催規模を設定する。

グループに分かれて円滑にディスカッションを行うため、1グループ5～6名程度とし、会場規模・組織形態・開催時間等も勘案して、4～6グループで設定を行うことが望ましい。

○参集範囲

- ・市町村、土地改良区（役職員、総代）
- ・自治会、自主防災組織
- ・多面的機能支払活動組織
- ・PTA、長寿会、営農組織など



会場レイアウトイメージ図

4. 開催に向けた打ち合わせ、準備等

ワークショップ開催に向けて、地域へのアプローチ、関係機関等との調整、危険箇所の事前把握、資料作成などが必要となる。

開催に向けた打ち合わせ内容等の例を以下に示す。

（１）打ち合わせ

第１回

- ・開催の目的・意義などを共有。
- ・参集範囲の設定。（人数把握）
- ・開催にあたっての基本事項を検討する。
（開催日、実施内容、当日までのスケジュール等）

第２回

- ・開催当日の行動、内容の調整。
（実施内容、タイムスケジュール、現地まわり等）
- ・危険箇所を事前に把握する。

第３回

- ・必要に応じて開催する。



事前打ち合わせの様子

（２）危険箇所の事前把握（ケーススタディ箇所の選定等）

- ・会場周辺を徒歩で行ける範囲を決めて、危険箇所の把握を行う。
- ・写真撮影、水路幅、高低差などを測定、簡易的な図面（断面図）を作成する。
- ・ケーススタディの検討内容を一覧表として整理する。



事前の危険箇所確認



必要に応じて寸法測定を行う

(3) 配布資料、準備品など

ワークショップに必要な機材、配布資料、準備品の例を以下に示す。

この他にも啓発チラシの配布やセミハード対策となる反射板、道路鋸、ポールコーンなどを必要に応じて展示する。

区分	項目	内 容	数量	区分	項目	内 容	数量
機材	張り紙	タイトル/横断幕 A0 ロール		グループ毎	記入用資料	危険箇所マップ 図面 A1	
		グループ表示				対策検討シート A1	
		講師席など			筆記用具等	シャープペン	
		入口案内、受付札				バインダー A4	
		グループ表示パネル				付せん 大、中	
	設営	スクリーン				マジック（黒、赤、青、緑等）	
		プロジェクター				下敷き（マイラー）	
		PC				名札 参加者	
		レーザーポインター				名札 スタッフ	
		電源ケーブル				お茶（ペットボトル）	
		マイクアンプ				セロ、両面、養生、ガムテープ	
		ハンドマイク（現場説明用）		事務用品		必要に応じて	
配付資料	個人別	次第、危険箇所マップ、対策検討シート、その他配付資料					
	封筒	角 2					

危険箇所マップ、対策検討シートの詳細は、後述する。

(4) ファシリテーター（進行役）

グループディスカッションを円滑に進めるにあたり、専門的な知識を有し中立的な立場で進行、指導、総括を行うファシリテーターを設置することが望ましい。

行政、土地改良区、各種団体等を通じて、大学、研究機関の専門家に依頼することも可能である。

選定が難しい場合は、主催者側で上記の立場を意識して対応することや、地域の中から円滑な進行が期待できる人を選定することも考えられる。



ファシリテーターによる進行

※ファシリテーターの主な役割・立場

- ・意見を聞き出す
- ・アイデアを広げるように話し合いを進める
- ・意見を整理する、絞りこむ
- ・意見をまとめる

5. 主な流れと内容

農業用水路の安全点検に係るワークショップの主な流れと内容の例を以下に示す。

所要時間は、フィールドワーク、グループディスカッションの内容、参加者の負担感等を考慮して、半日程度を確保し開催することが望ましい。

□ワークショップの主な流れと内容（例） [9:30～12:00 の2時間半程度を想定]

項 目	時間配分	内 容 (例)	
開会、 趣旨・課題 説明	10分～20分	主催者あいさつ スケジュール、趣旨説明、話題提供 自己紹介：グループ毎（簡潔に）	
フィール ドワーク	30分～60分	現場で危険箇所の点検 （時間が制約される場合は、ケーススタ ディとして主な危険箇所を選んで実施）	
※ グループ ディスカ ッション	40～60分	フィールドワークで確認した内容、地域 内の危険箇所、考えられる対策等につい てグループディスカッションを行う。 危険箇所マップ（縮尺 1/5,000 程度）、 対策検討シートに意見等を書き込む。	
意見発表	20～30分	各グループで出された意見を代表者が 簡潔に意見発表し、全体で情報を共有す る。	
講評・総括	10分程度	各グループの意見、ワークショップ全体 を通しての取り組み内容を講評・総括す る。	
閉会	10分程度	閉会のあいさつ 記念撮影、アンケート	

※グループディスカッションにおける基本ルール

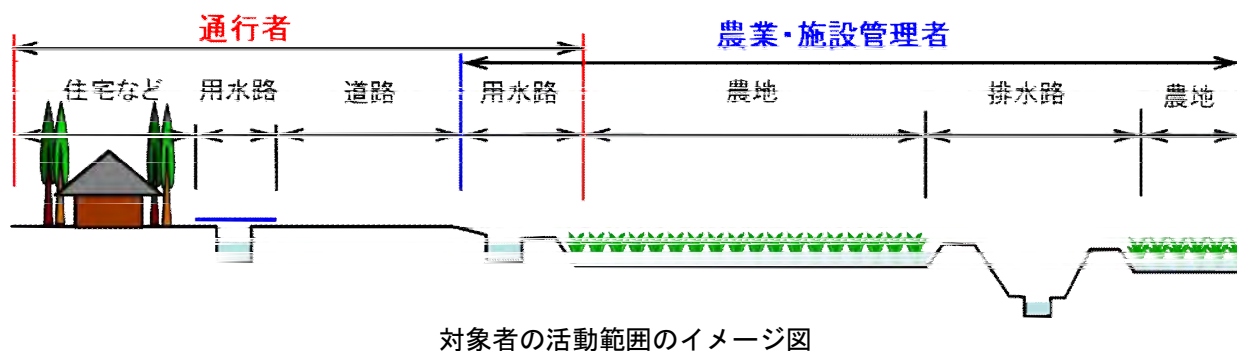
より良い議論が深まるように、下記事項を参加者に周知する。

- ・参加者が対等な立場で自由に意見を述べる。
- ・批判はしない。より良くなるために何をすべきかを共に考える。
- ・話題を独占しない、自分の考えを押しつけない。
- ・判らない、理解が進まないところは、パスしても構わない。
- ・通じ合える、共感できるところを模索する。

6. 安全点検の考え方

(1) 安全点検の着目点

ワークショップにおける安全点検は、①物理的に見える危険、②想定される危険に着目し整理を行う。下図に示すように通行者（歩行者、自転車）、農業・施設管理者などの立場で想定される危険箇所、行動や対策が必要な箇所、児童や高齢者の行動範囲や通行する頻度、昼夜、季節の状況などにも留意して検討を行う。



水路沿いの歩行



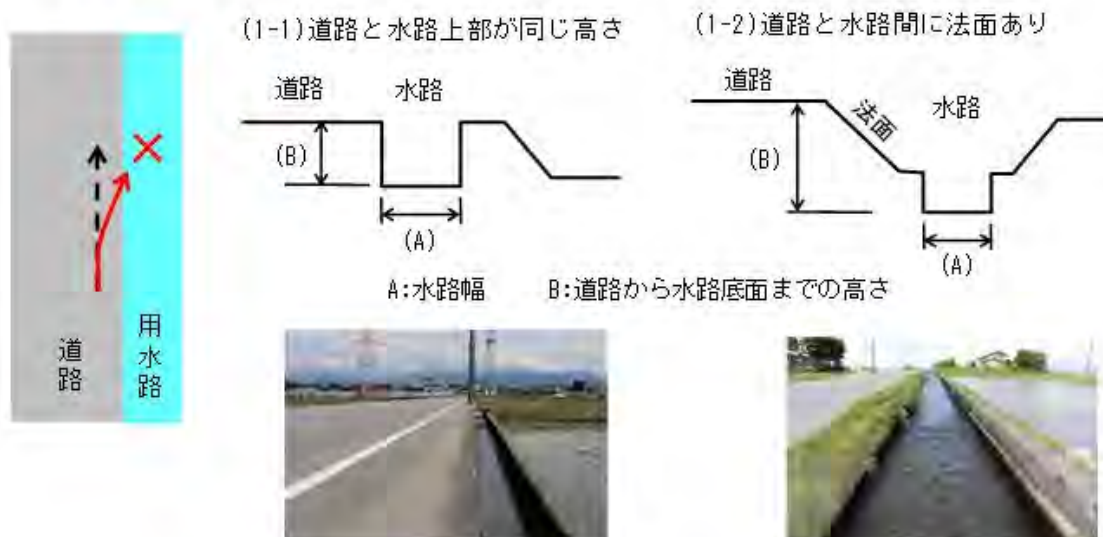
水路沿いの自転車通行



事故リスクが考えられる箇所の事例（事例の詳細は、別添資料を参照）

例1 道路に隣接した農業用水路（圧倒的に延長が長い）

- ・農業用水路に隣接する道路は、県道、市町村道のケースも多い。
（道路側溝を兼ねている場合もある）



例2 カーブの外側に水路



例3 交差点の隅切り部の水路



例4 水路橋梁部のクランク



< 昼夜の状況比較 >



日 中



夜 間



通 常



積雪時

< 季節による状況変化 >

(2) 安全点検、対策検討の手法

着目点で示した①物理的に見える危険、②想定される危険について、ワークショップにおいて目視点検により状況を確認し、危険度を認識する。次に危険箇所における安全対策についてグループディスカッションなどを通じて検討を行う。

その際、①地域内の関係情報を落とし込んだマップ（危険箇所マップ）、②危険箇所の対策内容を整理する一覧表（対策検討シート）等を活用する。

□危険箇所マップ 事例紹介



□対策検討シート(ひな形)

項 目	分 類	箇所 ID	現場環境区分	写真	写真番号	必要と考える安全対策			備考
						ソフト (啓発活動)	ハード	セミハード	
物理的に 見える危険	水路と道路との関係	A	水路と道路が隣接 (直壁)		01,04,10,14, 16,17,30				
		B	水路と道路が隣接 (法面あり)		27				
		C	水路と道路が隣接 (カーブ) 進行方向に水路		02				
		D	交差点隅切り部、T字 路		01,03,05,09				
		E	クランク						
		F	道路と水路が交差する 暗渠部の高低差		22,23				
		G	道路に隣接した 水路 マスなど						
	通路・法面の 劣化、狭小な 操作スペース 等	H	通路・法面劣化による 作業スペース消失		25				
		I	水口、水門設備等の 操作スペースが狭い、 フェンスがない		12,26,28				
	フェンス関係	J	フェンスのすき間、穴 あき		15,17,18,19, 20,21,29				
		K	フェンスが低い		14				
		L	農業用水路の床版橋 等の横断箇所の欄干 がない、低い		06,07,08,11, 13,24				
		M	フェンスの老朽化が著 しい						

□対策検討シート(ひな形)

項 目	分 類	箇所 ID	現場環境区分	写 真	写真番号	必要と考える安全対策			備考
						ソフト (啓発活動)	ハード	セミハード	
想定される 危険	行動や作業		歩行時に蹴踏いた、よろけた						
			水路を跨ぐとき						
			自転車走行時						
			暗くて水路が見えない						
			草が障害になり水路が見えない						
			自動車を避けようとした						
			水口、吐口管理時の転倒						
			草刈り時のヒューマンエラー						
			農作業時のヒューマンエラー						
			施設管理時のヒューマンエラー						
			水路横で子供たちが遊んでいて、誤って転落するかもしれない						

□対策検討シート 記載事例

安全対策ワークショップ <検討結果>			グループ名	3 班
事例	検討区分	箇所番号	必要と考える安全対策	
A	道路と水路が隣接 (直壁)	(1) ・ (10)	・看板設置(危険啓発) ・ポールコーン設置 ・江浚い時に用水側面の工を取る	
B	道路と水路が隣接 (法面あり)	(2) ・ (4) ・ (6)	・安全救助ロープ設置 ・ポールコーン設置 ・水路と道路境に白線を引く	
C	交差点隅切り部	(3) ・ (5)	・ポールコーン設置(除雪対策?) ・隅切り部に白線を引く	
D	幹線水路と隣接する水路 清浄の通行と草刈り 作業等の危険性	(8) ・ (9) ・ (12)	・防草シートを張る ・安全救助ロープ	
E	水口や排水槽を管理 するための簡易な橋の 有無について	(2) ・ (6) ・ (13)	・しっかりとした橋をかけてもらう ・地域の皆さんなど、用水を守る という意識を高める	

※全体として普及啓発(注意喚起)			1 班
事例	検討区分	必要と考える対策など	
A	道路と水路が隣接 (直壁)	・路面表示(白線) ・取水口の蓋掛け	
B	道路と隣接する水路 (法面あり)	・路面表示(白線) ・看板設置 ・取水口の蓋掛け ・橋梁部分(内)ポールコーン設置	
C	道路に隣接した 水路マスなど	・グレーチング蓋の設置 (分割して持ち上げられるもの) (用水量や土砂堆積が見えるように)	
D	道路暗渠部の上下流、 交差点などにおける 高低差		
E	フェンスのすき間	・草やゴミが上げられるようにする は必要! (チェーンやフックですき間を塞ぐ) (作業時に取りはずす)	

対策の検討では、ソフト、ハード、セミハードの適用について、考えられる選択肢を提示し、議論が円滑に進行するように配慮する。

□安全対策の事例一覧

安全対策の事例(主なソフト対策、ハード対策、セミハード対策)

対策区分	No	対策内容	対策イメージ	対策区分	No	対策内容	対策イメージ
ソフト	①	普及啓発 ・チラシ ・ポスター(カレンダー) ・広告、TV放送など		セミハード (簡易な対策)	⑦	路面標示	
ハード	②	転落防止柵の設置 (高さ1.1m)			⑧	鉄筋網蓋の設置 柵などの蓋掛け	
	③	水路の暗渠化 ・自由勾配側溝 ・蓋掛け ・ボックスカルバート	 自由勾配側溝・蓋掛け ボックスカルバート		⑨	水口(取水口) の蓋掛け	
セミハード (簡易な対策)	④	危険啓発の 看板設置			⑩	簡易柵 チェーン	
	⑤	ポールコーン の設置			⑪	その他 (左:安全救助ロープ) (右:ステップ幅の確保)	
	⑥	反射板、発光式 道路標識等の設置	 発光式道路標識 反射板道路標識(発光タイプ)				

(3) 対策検討の留意点（参加者に投げかける検討のポイント）

①ソフト対策

- ・転落事故の多い高齢者※の理解を深めるには、どのような啓発方法や啓発内容が良いか？
- ・子供たちの転落事故を防止するには、どのような方法が有効か？

※高齢者の事故が多い要因

- ・身体機能の低下（転びやすい傾向が強くなる）
- ・水路に落ちない自信がある人が多い（自分は大丈夫との意識が強い傾向）
- ・慣れによる安全意識の低下

②ハード整備

- ・安全対策と維持管理、経済性との折り合いをどうつけるか？
- ・安全性を向上させると水路の維持管理の作業性が悪くならないか？
- ・フェンスを設置するのは良いが、誰が費用を負担するのか？

③セミハード整備

視認性の向上、ヒューマンエラーの防止には何が必要か？
どのような簡易整備が効果的か？

(4) 対策優先度について

ガイドラインでは、危険箇所における対策優先度指標を示して、危険と感じる箇所の状況
を評価することで、地域の状況に応じた整備に向けた順位付けができる。

評 価	内 容
優先度A	当該水路におけるハード、セミハードの対策を優先的に検討、実施するとともに、ソフト対策を並行して行う。
優先度B	現場状況に応じて、ハード、セミハード対策を順次検討、実施するとともに、ソフト対策を並行して行う。
優先度C	主として、ソフト対策を行い、現場状況に応じて、必要なハード、セミハード対策を行う。

①転落リスク（目安）

- ・水路底と隣接する路面等との高さ（3段階で評価）
「2.0m 以上、1.0m 以上、1.0m 未満」
- ・水路幅（2段階で評価）
「1.0m 以上、1.0m 未満」
- ・水の流れ（2段階で評価）
「速い 1.0m/s 以上、ゆるやか 1.0m/s 未満」

②周辺環境

- ・水路沿いの視認性、足もと状況（3段階で評価）
「視認性が悪い、視認性が乏しい、問題なし」
- ・高齢者、児童等が歩行。自転車走行する頻度（3段階で評価）
「高い、普通、低い」
- ・住宅地や周辺施設等の考慮（3段階で評価）
「必要性大、必要性あり、考慮なし」

優先度評価表 <危険箇所マップ作成やハード、セミハード対策の検討時の参考>

危険箇所における対策の実施にあたっては、水路底と路面等との高低差、水路幅、水の流れ(流速)を要素とした「転落リスク」と、視認性や住宅の立地状況等を要素とした「周辺環境」を総合的に評価し、3段階(A,B,C)の対策優先度を設定して、地域の状況に応じた整備を推進することが効果的かつ効率的です。

□優先度指標の考え方

評価	内 容
優先度A	当該水路におけるハード、セミハードの対策を優先的に検討、実施するとともに、ソフト対策を並行して行う。
優先度B	現場状況に応じて、ハード、セミハード対策を順次検討、実施するとともに、ソフト対策を並行して行う。
優先度C	主として、ソフト対策を行い、現場状況に応じて、必要なハード、セミハード対策を行う。

□優先度評価表

評価分類	番号	評価項目	高 ← リスク → 低			評価
			3	2	1	
転落リスク	(1)	水路底と隣接する路面等との高さ	高い (目安:2.0m以上)	高い (目安:1.0m以上)	低い (目安:1.0m未満)	
	(2)	水路幅	—	広い (目安:1.0m以上)	狭い (目安:1.0m未満)	
	(3)	水の流れ	—	速い (目安:1.0m/s以上)	ゆるやか (目安:1.0m/s未満)	
	評価点(合計)		(1)(2)(3)の点数の合計			0
	転落リスク評価		A評価:7点、B評価4点～6点、C評価3点			
評価分類	番号	評価項目	高 ← リスク → 低			評価
			3	2	1	
周辺環境 ※	(4)	水路沿いの視認性、足もと状況	視認性が悪い。 または、足もとが極めて狭く凹凸も大きい。	視認性に乏しい。 または、足もとが狭く、凹凸もある。	視認性、足もとの安全性に問題はない。	
	(5)	高齢者・児童等が歩行・自転車走行する頻度	高い	普通	低い	
	(6)	住宅地や周辺施設等の考慮	考慮の必要性大	考慮の必要性あり	考慮なし	
	評価点(合計)		(4)(5)(6)の点数の合計			0
	周辺環境評価		A評価:7点以上、B評価:4～6点、C評価3点以下			
優先度評価			優先度評価判定表により評価を行う。			
特記事項 (現地の事情で考慮した点など)						

※周辺環境の項目については、現地の事情により異なるので、昼夜の状況、季節の状況、気象の状況などを総合的に勘案して評価することが望ましい。

写真等

優先度評価判定表

		転落リスク		
		A	B	C
周辺環境	A	A	A	B
	B	B	B	B
	C	B	C	C

（５）限られた時間内での効果的な実施

安全点検（フィールドワーク）及びグループディスカッションを限られた時間内で行い、地域の安全対策の方向性について一定程度の合意形成を図ることも重要である。

開催時間を考慮すると、現場での点検のケーススタディとして、地域内の代表的な危険箇所を選定して点検を行うことが効果的である。

この実践には、ワークショップ開催前に事前点検を行い、危険箇所マップには危険箇所の情報を落とし込むとともに、対策検討シートには地域内の危険箇所を写真表示し、危険箇所マップと対策検討シートをリンクさせるなどの準備が必要である。

これにより、ワークショップ参加者が、ケーススタディ箇所の事例から、自身が危険を感じる類似箇所をマップに落とし込み、対策のイメージを深めることが可能になる。

□代表的な危険箇所の選定事例

検討区分	現場イメージ	検討区分	現場イメージ
道路と水路が隣接 （直壁）		道路暗渠部の上下流、 交差点などにおける高 低差	
道路と水路が隣接 （法面あり）		フェンスのすき間	
道路に隣接した 水路マスなど		交差点隅切り部	

7. 危険箇所マップの作成方法

ワークショップで使用する危険箇所マップは、対象範囲を網羅する地図を利用し、あらかじめ地域内の河川、道路、主要施設や農業用水等路を記入し、その中に、危険箇所等の情報を落とし込む。

マップに落とし込む農業用水路の位置情報は、関係土地改良区の施設管理台帳などを参考にして作成すると効率的な作業が可能である。

危険箇所では、道路と水路が隣接する線的な区間と、交差点、クランクなどの点的な箇所が存在する。マップには、これらを線、点情報として図示し、対象箇所の写真を図面上に貼り付け、現場のイメージを理解しやすいように整理する。

□危険箇所マップ作成事例（南砺市本江エリア）



□危険箇所マップの記載事項一覧

区分	記入内容
背景図	・ 白図（1/2, 500～1/5, 000） ・ 市町村の都市計画基本図などを利用
あらかじめ地図に書き込む情報	・ 河川（一級、二級） ・ 主要道路（県道、市町村道） ・ 農業用排水路（幹線、支線・末端水路） ・ 主要な地域の施設（地区センター、公民館、小学校、地域の代表的な施設等）
危険箇所の明示	・ 記号、注記（内容、高・幅、延長など） ・ 写真、断面図など

図面凡例の事例

凡 例	凡 例
記号	説 明
→	用水路
→	排水路
→	幹線用水路
→	指定河川
→	県道・スーパー農道
→	市道
●	ケーススタディ現地確認箇所
○	ケーススタディ検討箇所
---	熊野土改区域

※写真撮影等における留意点

高さや流速など、現場状況を対策優先度の指標と関連付けて撮影する。

足もとの状況を意識して、撮影を行う。

高さを明示するため、スタッフなどを置いて撮影するのも効果的である。

8. 対策検討シートの作成方法

対策検討シートは、危険箇所マップで整理した危険箇所を類型化し、下表に示すような一覧表に整理する。

一覧表には、当該危険箇所の写真を入れ、ワークショップ参加者が現場をイメージできるように配慮する。

対策検討シートは、A 1 サイズなどの大判印刷紙、グループディスカッション単位に配布する。

□対策検討シート（ワークショップ用）

安全対策ワークショップ ＜危険箇所ケーススタディシート＞				グループ名	班	
事例	検討区分	箇所番号	現場イメージ	必要と考える安全対策		
				ソフト（普及啓発）	ハード	セミハード
	記入例			例えば・・・ 【安全対策事例①】 普及啓発チラシ ・回覧板で注意喚起 ・PTAなど各団体に注意喚起	例えば・・・ 【安全対策事例②】 転落防止柵 ・対策延長が長く費用がかかり過ぎる。 ・農家の承諾が必要。 ・通行量が少ないので、部分的に設置すればどうか。	例えば・・・ 【安全対策事例⑤】 ポールコーン ・安価で目印として有効。 【安全対策事例⑧】 鉄筋網蓋の設置 ・水口付近だけでも有効でないか。
A	道路と水路が隣接（直壁）	(1) ・ (10)	道路と水路が近く、高低差が大きい  夜間の通行時など、踏み外すと危険 			
B	道路と水路が隣接（法面あり）	(2) ・ (4) ・ (6)	道路と水路の間には草の生える法面がある  夜間の通行時など、踏み外すと危険 			
C	交差点隅切り部	(3) ・ (5)	交差点隅切り部に開水路がある場合  自動車・自転車の運転ミスで転落の恐れあり 			
D	幹線水路と隣接する水路 清時の通行と草刈り 作業等の危険性	(8) ・ (9) ・ (12)	清時の幅が狭く慎重な作業が必要  幹線水路は長大法面で作業には危険が伴う 			
E	水口や排水槽を管理 するための簡易な橋 の有無について	(2) ・ (6) ・ (13)	道路から飛び越えて対岸へ渡っている  簡易な橋はあるが、幅が狭く法面が危険 			

□対策検討シートの記載事例

事例	検討区分	必要と考える安全対策		
		ソフト（普及啓発）	ハード	セミハード
		【安全対策事例①】 普及啓発チラシ ・回覧板で注意喚起 ・PTAなど各団体に注意喚起	【安全対策事例②】 転落防止柵 ・対策延長が長く費用がかかり過ぎる。 ・農家の承諾が必要。 ・通行量が少ないので、部分的に設置すればどうか。	【安全対策事例⑤】 ポールコーン ・安価で目印として有効。 【安全対策事例⑧】 鉄筋網蓋の設置 ・水口付近だけでも有効でないか。

□安全対策の事例一覧

安全対策の事例(主なソフト対策、ハード対策、セミハード対策)

対策区分	No	対策内容	対策イメージ	対策区分	No	対策内容	対策イメージ
ソフト	①	普及啓発 ・チラシ ・ポスター(カレンダー) ・広告、TV放送など		セミハード (簡易な対策)	⑦	路面標示	
ハード	②	転落防止柵の設置 (高さ1.1m)			⑧	鉄筋網蓋の設置 柵などの蓋掛け	
	③	水路の暗渠化 ・自由勾配側溝 ・蓋がけ ・ボックスカルバート			⑨	水口(取水口) の蓋掛け	
セミハード (簡易な対策)	④	危険啓発の 看板設置			⑩	簡易柵 チェーン	
	⑤	ボールコーン の設置			⑪	その他 (左:安全救助ロープ) (右:ステップ幅の確保)	
	⑥	反射板、発光式 道路鋲等の設置					

9. 役割分担と進行

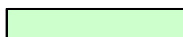
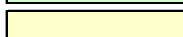
(1) 役割分担

ワークショップの開催にあたり、開催規模等を考慮し、下表の示すように、人員の役割分担を整理し、実施体制を設定する。

グループディスカッションは、地域内の人材で進行やとりまとめ等を行うリーダーを選定する必要がある。開催地区における打ち合わせにおいて調整を行う必要がある。

□ワークショップ 役割分担

司 会 (司会=ファシリテーター可)						
あいさつ	地域の代表					
	土地改良区、市町村等					
ファシリテーター	富山県内の事故状況等説明					
班分け	分類	1班	2班	3班	4班	5班
フィールドワーク グループディスカッション	地元リーダー (進行・発表)					
	リーダー補佐 (主催者側)					
	参加者					
総 括 (司会=ファシリテーター可)	まとめ、研究等の紹介 (対人or動画)					
講評、閉会のあいさつ						

 : 主催者側
 : 地域の方

(2) ワークショップのタイムテーブル

ワークショップの進行例を以下に示す。

実施地区の状況に応じて、進行内容をアレンジされたい。

□ワークショップのシナリオ・進行例

項目	シナリオ、進行例	所要時間
開会	・ただいまより、〔 〕地区、農業用水路安全対策ワークショップを開催致します。 ・本日の司会(ファシリテーター)を務めます〔 〕の〔 〕と申します。よろしくお願い致します。 ・開会に先立ち〔 〕地区の〔 〕会長、〔 〕様よりご挨拶をいただきます。よろしくお願い致します。 —— 地域の代表:挨拶 —— ・〔 〕様、ありがとうございました。 ・続きまして、主催者を代表して、〔 〕の〔 〕がご挨拶致します。 ・〔 〕ありがとうございました。	約3分
富山県内の事故状況等説明	・皆様にお配しております資料をご説明致します。 —— ※資料の確認 —— ・続きまして、本日の日程をご説明致します。資料をご覧下さい。 ・富山県内の事故状況等のご説明を致します。資料をご覧下さい。 —— パワーポイント or 動画等で説明。 ——	約7分
人体模型を用いた水路における流下実験(動画再生)	※パソコン、プロジェクター、スクリーンが準備できる場合 ・水路に人が転落した場合の状況を再現するため、人体模型を用いた実証実験を行った動画がありますので、ご覧下さい。	約5分
フィールドワーク	・これから、現場で安全点検を行います。 ・班毎に点検する現場をまわる順番を説明。 ・現場に持って行く資料と、確認のポイントについて説明。 ・危険箇所マップ、対策検討シート、安全対策の事例一覧について説明。 ・各班には、地元リーダーとしてグループディスカッションの進行役の方、地元リーダーの補佐として、主催者側のリーダー補佐が入っております。 ・主催者側のリーダー補佐の案内で現場に向かいますので、順次ご移動をお願い致します。	約 30 分
グループディスカッション	・それでは、これよりグループディスカッションを行います。 ・各班の地元リーダーの方の進行で進めさせていただきます。 ・みなさま円滑な進行にご協力をお願い致します。	約 50 分

	・はじめに3分程度で、自己紹介していただき、そこから現場で気づかれた点を意見交換いただければと思います。 ・テーブルの上には、A1サイズの危険箇所マップと「対策検討シート」を準備しています。 ・付せん意見を書いて貼り付けたり、マップに危険箇所を記入したり、ご自由にお使い下さい。 ・〔 : 〕までの〔 〕分間は、意見交換していただき、〔 : 〕までに、各班で出された意見を取りまとめ、「対策検討シート」に記入して下さい。 ・「対策検討シート」の作成が終わった班から、会場前方に貼り出して下さい。 ・最後に、各班の代表者の方にグループ内の意見をご発表いただきます。班の中で発表される方をあらかじめ決めておいて下さい。(譲り合いはほどほどで協力をお願い致します) ・グループディスカッションにおける留意点をお伝えします。 ・まず限られた時間のため、円滑な進行にご協力をお願い致します。 ・いろいろ意見を出していただけるとは思いますが、基本ルールとして「相手の意見を批判はしない」ことを念頭をお願い致します。出された意見に対して「どうしたら更に良くできるか、実現できるか」など前向きな話題にしていだけたらと思います。 ・それでは、よろしくお願い致します。 —— とりまとめに向けたアナウンス —— ・みなさま、議論が盛り上がってきていると思いますが、いま〔 : 〕になりました。 ・そろそろ班の意見を取りまとめて、対策検討シートへの記入を始めて下さい。 ・記入の終わった班から、会場前方に貼り出して下さい。	
意見発表	・みなさま、グループディスカッション、おつかれさまでした。 ・皆様に意見交換いただいた内容を他の班の皆様と共有するため、各班3分程度で意見発表をお願い致します。 ・それでは、1班の代表の方、よろしくお願い致します。(早い班からでもOK) ・続きまして、2班の方・・・順次進める。 ・これで全ての班の意見発表が終わりました。	3分×班数 約20分
講評・総括	・皆様からのご意見をここで、整理させていただきます。 —— 対策場所の特徴、危険箇所の分類による意見の傾向、特徴など —— —— 動画など ——	約5分
閉会のことば	・最後に〔 の 〕様より、講評、閉会の言葉をいただきます。 ・〔 〕様よろしくお願い致します。	

閉会	・これで本日のすべての日程を終了致しました。 ・円滑な進行にご協力いただき、ありがとうございました。 ・本日の資料にアンケートを入れております。 たいへんお手数をおかけ致しますが、ご記入いただき、会場出口の回収箱に入れて下さい。 皆様、お疲れ様でした。 可能であれば、参加者全員で写真撮影を行う。	約5分
----	--	-----

(3) 説明等を円滑にする資料等について

ワークショップに際して、富山県内の全体的な状況等を説明する動画を活用し、効果的に説明するとともに、主催者側の負担軽減を図ることも検討する。

10. 成果のとりまとめ

- ワークショップ閉会後は、グループから出された意見・要望などを、とりまとめ整理する。
- ・グループ毎の対策検討シートをスキャニングし、A3サイズにとりまとめる。
 - ・グループから出された意見・要望を1枚の対策検討シートに整理する。
 - ・危険箇所マップについても、グループで特筆された箇所・事項を1枚のマップにとりまとめる。
 - ・当該地区における安全点検、対策検討の方向性を下記項目の報告書にとりまとめる。

農業用水路安全点検ワークショップ実施報告書

1. 開催実績

- (1) 開催日時、場所
- (2) 参加者
- (3) 開催内容
- (4) 開催状況写真

2. ワークショップにおける意見・要望など

- (1) グループ毎に意見・要望（対策検討シート）
- (2) 危険箇所マップ → 地域への周知・啓発に活用

3. 実施地区における全体的な対策の方向性

- (1) ソフト対策
- (2) ハード対策
- (3) セミハード対策
- (4) 安全対策マップ → 安全対策推進計画に活用

[illegible]

- 19 -